

評価の観点から考える「校風」輪郭の可視化意義

— 大学価値の確認と創出に向けて —

○ 大川 一毅（岩手大学） 大野 賢一（鳥取大学） 畠田 敏行（茨城大学）



1

1 大学評価と校風 （本研究を前に）

- 今日の日本において大学評価は定着している。
- 法令義務化された第三者評価がすべての大学で行われることで内部質保証体制も構築され、ディプロマポリシーに則した学修成果の検証も進んだ。
- これら評価は、導入当初にあって「大学の個性」伸張を強調していた。
- しかし導入から約20年を経て、「個性の伸張」において、大学評価は果たしてどれだけ寄与してきただろうか。

2004年「国立大学法人化」時より評価業務に関わる者としての実感
「個性化」よりも「標準化」

2 研究課題として

(1) 大学の個性や魅力を引き出す自己点検・評価(大学評価)ができないか。

- 現行の大学評価を否定するのではなく、大学評価が普及定着した現在だからこそ、自学の個性や魅力を確認し、あるいは新たな創出を図る大学評価ができないか。

⇒社会や時代状況の変化に即し、従来と異なる価値観や成果視点の創出。

⇒大学それぞれが有する特性の自覚的向上に資する「活性化評価」の工夫と
そのための指標設定。

2 研究課題として

(2) 「大学校風」への着眼

- どの大学にも「校風」がある。
- 学生にとってポジティブ（建設的・積極的）に感じられる校風は、大学における諸活動実践の意欲を促進。
- これら経験による満足感の蓄積は大学への帰属意識も高める。
- 学生に魅力的な校風を感じさせる大学は、志願者にとっても魅力的（進学誘因力）となり、卒業生にとっては誇り（母校支援誘因力）となる。
- 大学の社会的評価に校風が影響していることは多くの者が経験的に認識。

2 研究課題として

(3) 「校風」とは

- 本報告において「校風」とはその大学独自の雰囲気や気風を言うこととする。
- 校風は「建学の精神」と関わりながらも同一ではない。
- 校風は世代にわたって継承され、大学の全構成員によって可塑的に醸成・継承、あるいは刷新される。
- 大学をその大学たらしめるアイデンティティともいえる。

補足：「私立大学協会ガバナンスコード」でも「校風」に言及

日本私立大学協会憲章 「私立大学版 ガバナンス・コード」 <第1版> 平成31年3月

「私立大学版 ガバナンス・コード」

以下、本協会が制定した「私立大学版ガバナンス・コード」を提示する。本協会全加盟大学は建学の精神・理念に従い、これを規範として、それぞれの私立大学の実状に応じて、公共性と自主性を基本とした自律的なガバナンス・コードを制定されたい。

第1章 私立大学の自主性・自律性（特色ある運営）の尊重

私立大学の存在意義は、建学の精神・理念にあり、それに基づく独特の学風・校風が自主性・自律性として尊重され、個性豊かな教育・研究を行う機関として発展してきました。

(以下省略)

(4) 「校風」を形成する要素を抽出できないか

- しかし、語られる「校風」はあくまで主観的であり「曖昧」である。
- ならば「校風」を客観的に把握するための輪郭要素を抽出・分類し、それを可視化する指標がたてられないか。これを大学評価に活用できないか。


そこでまず、大学校風についての「共通輪郭」の把握を試みるものとして、各大学ウェブサイトから「学長挨拶」280件を収集（国立大学30件、公立大学37件、私立大学162件）。

そこから校風言及を抽出。（校風がどう語られているか。共通要素は何か）

同様に「同窓会会長挨拶」499件を収集して校風言及を抽出。

校風言及の抽出件数は少なく、あまり有効な試みとならず。
（学長の校風言及18件、同窓会会長の校風言及5件）

3 大学ウェブサイトからの「校風」言及の抽出と分類

- 各大学ホームページにある「 search」欄で「校風」と入力すると、各大学の校風について言及された項目が提示された。
↓
- 2020年現在の全国788大学のサイトで「校風」を検索し、そこから総数543項目を確認。
（国立大学105項目、公立大学46項目、私立大学392項目）。
（「語り手」は学生、卒業生、学長、教職員、同窓会会長、保護者、大学広報など多様）
- ここで校風とともに語られる具体的な「行為」「様態」「価値規範」「活動環境」「感情」「印象」「人間関係」等を抽出し、「校風」形成する要素（輪郭）として収集整理。

文例：○大は個人の成長を伸ばす自由な校風です。

文例：○○大学のとにかく自分で何でも実践させるという校風が大好きでした。

文例：アットホームな校風でとてもものびのび学ぶことができました。

文例：入学した当時、この女子大の校風は「質実剛健」だと聞き、びっくりしたことを思い出します。

しかし、最近ぴったりと思い初めました。地味だけど、しなやか。いざとなると底力を発揮する。

(1) 「様態・行動規範」 範疇で語られる校風のキーワード (校風要素)

様態・行動規範		発言者							設置別		
キーワード	抽出数	学生	卒業生	学長・学部長・理事長	教員	同窓会長・後援会長	志願者	大学	国立	公立	私立
自由	146	22	53	11	7	2	1	37	34	11	101
個性 (尊重)	35	4	8	7	1	1	3	14	3	3	29
自主 (的)	22	5	4	1	0	0	0	10	4	3	15
真面目	13	3	3	5	0	0	0	0	2	3	8
多様性	13	1	3	4	0	1	0	4	3	0	10
誠実・至誠	11	1	1	5	0	1	0	3	0	0	11
質実剛健	10	0	3	0	0	0	1	3	1	0	9

- ・ 大 학교 風を形成する要素として「自由」が語られる場合が圧倒的に多く、卒業生、在学生在が強調。
- ・ 「個性 (尊重)」については、学生がこれを校風として言及することは必ずしも多くはない。

「自由」という校風要素について

「自由」という環境 (校風) の中で大学として何ができるか。何を与えるか。

- ・ 自由という名の「放任」になりかねない。
- ・ 自由という名の「無個性」。

⇒ 大学評価として何を検証すればよいのか (どう評価すればよいのか)

「自由」という環境 (校風) を「教育・研究・学生支援・課外活動支援」としてどう反映・具体化するか。

そこに「大学の特色」が出る。

この大学は自由な校風だと思います。だからこそ、自分を持っておかないといけない所だと思います。(卒業生)。

(2) 「教育・研究・課外活動、交友関係」範疇で語られる校風のキーワード（校風要素）

教育・研究・課外活動、交友関係		発言者							設置別		
キーワード	抽出数	学生	卒業生	学長・学部長・理事長	教員	同窓会長・後援会長	志願者	大学	国立	公立	私立
友、仲間とのつながり	52	13	22	3	5	2	0	7	7	3	42
国際・グローバル	37	3	7	13	1	2	0	13	9	5	23
地域	18	0	1	11	1	1	0	3	3	8	7
サークル・部活動	12	4	1	0	0	1	2	3	3	0	9
少人数	12	3	2	0	0	1	0	5	1	2	9

- ・学生や卒業生は、よき交友関係を構築し得た大学環境を「校風」と考える。
- ・「国際・グローバル」「地域」を大学や学長は強調するが、学生は「校風」とは認識しない傾向。

オープンな校風の中で築いた友達との関係は、今も自分を支えてくれる大きな力になっています。（卒業生）
自由闊達な校風のなかで、信頼し合える仲間たちと最高の時間を過ごせたようです。（卒業生）

11

(3) 「大学環境・施設/建学の精神、伝統、歴史」範疇で語られる校風のキーワード（校風要素）

大学環境・施設		発言者							設置別		
キーワード	抽出数	学生	卒業生	学長・学部長・理事長	教員	同窓会長・後援会長	志願者	大学	国立	公立	私立
キャンパス（景観）	54	12	11	9	4	1	0	15	6	4	44
緑	11	3	1	2	1	1	0	3	2	0	9

建学の精神、伝統、歴史		発言者							設置別		
キーワード	抽出数	学生	卒業生	学長・学部長・理事長	教員	同窓会長・後援会長	志願者	大学	国立	公立	私立
伝統	52	3	8	20	2	4	0	12	12	4	36
建学の精神	46	1	1	19	2	5	0	18	3	4	39
歴史	37	1	6	13	1	3	1	9	6	4	27

- ・学生や卒業生は、「キャンパス」及びそこでの生活経験そのものを「校風」と連動させる。
- ・大学や学長が強調する「建学の精神」について、学生は「校風」と認識するには至らない。

大学の水に慣れてくると、キャンパスの大小などとは関係なく、次第に居心地が良くなっていく。よい意味での校風だろう。（卒業生）

12

(4)「雰囲気、感情、印象」範疇で語られる校風のキーワード（校風要素）

雰囲気、感情、印象											
キーワード	抽出数	学生	卒業生	学長・学部 長・理事長	教員	同窓会長・ 後援会長	志願者	大学	国立	公立	私立
明るい	20	5	2	4	1	1	2	5	4	1	15
楽しい	16	2	6	3	0	1	0	5	4	2	10
あたたかい	16	4	2	1	2	1	2	3	2	1	13
元気	12	2	4	3	1	1	0	1	1	0	11
穏やか	10	6	2	0	0	0	0	2	0	2	8

- ・大学の雰囲気や印象を「校風」と考える学生、卒業生は多い。
- ・「明るい」「元気」「活気（7件）」のみならず、「穏やか」「優しさ（9件）」を志向する学生も多い。

この大学の自由で明るい校風がみんなを行動的にさせてくれているのではないかと思います。（学生）

実際に入学すると、穏やかな校風や、親身になってお世話してくださる担任の先生によって次第に不安が無くなり、大学に通ううちに気軽に話せる友人を得ることが出来ました。（学生）

にぎやかで元気な校風を求めていた彼女の心は一瞬で魅了された。（学生）

13

4 抽出した校風輪郭を「対極的」に概観すると

自由	-----	秩序、規律、教養
多様性・個性	-----	統一、希求する人間像
自主	-----	きめ細かい指導、管理
明るさ	-----	地味、実直
誠実	-----	軽快、多面的
活発・元気	-----	静か、おだやか
実学・専門	-----	教養・リベラルアーツ
研究（重視）	-----	教育（重視）
課外活動	-----	学修活動
教員と学生の距離が近い	-----	自立、主体

創造、挑戦	-----	継承、伝統
国際的・グローバル	-----	地域性
少人数	-----	大規模
歴史・伝統	-----	新生・創造、先進
都市	-----	地方、郊外、自然
清楚・上品	-----	おしゃれ、流行

たとえばこうした校風輪郭対比のなかで、大学は自らの立ち位置を確認できまいか。

そのなかで各大学の「価値の確認と創出」にむけた方向性を見いだして取り組み、その実効性を検証する大学評価も有効ではないか。

14

5 「校風」の形成要素、及びその評価項目の抽出と指標化

校風形成の要素例	校風形成要素を特定・検証する項目・評価指標の例
自由	カリキュラム、課外活動、ボランティア活動、就職状況、起業事例、学生卒業生調査（満足度）
国際性、グローバル	留学生の派遣・受入、留学プログラム、海外同窓会支部数、海外協定大学数、英語で行う授業
大学の環境、人間関係	教員と学生の距離感、先輩後輩のつながり、課外活動参加者数、大学行事数、学生施設
地域性、地域文化	立地、地域・社会貢献活動、地域への就職状況、地域ボランティア参加者数、高大連携事業数
挑戦、進取、開拓	学内起業（企業）数、先端研究状況、海外ボランティア参加者数、特許数、各種受賞数
多様性	卒業生の活躍（有名人）、メディア掲載、志願者数、就職状況、寄付金額、外部資金受入額
伝統、建学の精神、歴史	実学・教養・研究の志向、卒業生数、同窓会支部数、スポーツ関係記録、寄付金、著名卒業生

15

今回の調査で得られた知見（まとめ）

国公立にかかわらず、多くの大学でそれぞれの校風についての言及がある。

校風の語られ方は多様。

学長・学部長が語る校風と、学生、卒業生が語る校風については違いも見られる。

（大学とステークホルダーとの認識の違いか）

校風として語られる「自由」について、大学はこれをどう理解し、いかに自らの特色として「具体的な取り組み」に反映するかは各大学それぞれの課題である。

このことは、自己評価も含めた大学評価にあっても、大学の「特色としての自由」について、どう判断・評価するかが問われることになる。

教員が語る校風の記録は少ない。どう理解すべきか。

学生や卒業生によって多く校風が語られる大学は、一般的な「大学イメージ」も明確である。

※校風項目の可視化は、大学それぞれの価値確認、あるいは新たな価値創出に向けた有効なひとつの方途となるか。

16

• ご清聴ありがとうございました。

- 大川 一毅（岩手大学 評価室）
- 大野 賢一（鳥取大学 大学評価室／学長室IRセクションリーダー）
- 鳶田 敏行（茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門）



本報告は、令和4年度 科学研究費助成事業 基盤研究（C） 一般 課題番号 22K027051
『「大学校風」の指標可視化と大学評価への活用に向けた実証的研究』の一環として行っています。

